

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100121		
法人名	社会福祉法人 報謝会		
事業所名	グループホーム青島ひかり		
所在地	宮崎県宮崎市青島2丁目7番8号		
自己評価作成日	平成24年4月20日	評価結果市町村受理日	平成24年7月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4590100121&SCD=320&PCD=45
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成24年5月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

馴染みの生活が送れるように、家庭的な雰囲気を大切にしています。職員は、「認知症」に対する理解を深めるため、社内研修、DVD勉強会、職員間での勉強会等に参加し、知識や技術向上を目指し、スタッフとの連携を保ちながら、ご利用者様が安心して暮らしができるようサービスの質の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者や職員は、チームワークの意義を理解し、運営改善に向けた取組を行い、日常的業務の中での気づきを話し合っ、結果を全職員で共有できる体制を築き、管理者不在でも課題が効果的に達成され、職員関係が促進される相乗効果を生んでいる。利用者が地域で安心して暮らせるように、近隣や近くの観光地を散歩したり、植物園の球根植えの手伝いに参加して、少しずつ地域とつながる支援に取り組んでいる。組織体制として、職員の人材育成をすすめるために、福祉DVD・各種資格取得の勉強会を開催している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	青島ひかりの事業計画の理念、日常の実践としてできる事を、職員間で話し合って理念を作った。目標として、実践に向けて取り組みをしている。	職員がチームワークについて、同じ考え方で同じ方向や目標に向かって一緒に動くことを指すものと理解し、利用者が普通に暮らせるしあわせ支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設側からの働きかけが弱く、運営推進会議等での助言に対しても実効できていない。	管理者が、地域密着型サービスの意義をよく理解し、地域包括支援センターでのホーム紹介や地域の拠点に活動報告を置いたり、近くの植物園の球根植えを手伝うなど、少しずつ地域とつながる支援に取り組んでいる。	本年度は、利用者が地域とつながる暮らしの支援の案が計画されているので、積極的に前向きな取組を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との交流が少なく、介護の相談や援助を行ったことは、ほとんどない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告を行い、最後に意見交換の場をもうけて、サービスの向上につなげるようにしている。	運営推進会議の参加者の理解や協力が得られている会議になっており、参加者の助言を基に、地域包括支援センターでホームの紹介をするなど、管理者・職員が地域連携や理解が得られるホームを目指している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	更新手続きやその他書類提出の際は、窓口へ出向き、担当者と話す機会を多く取るようにしている。	市の担当者と関係性を良好にしており、相談に丁寧に応じてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会等を開いて取り組んではいるが、十分に理解しているとは言えない。	日中は施錠することなく、帰宅欲求や外出傾向のある利用者の心身の状態を理解した上で、その場しのぎの対応をせずに納得のいくケア等（職員と一緒に納得いくまで外出に寄り添っていく）を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内に虐待防止マニュアルを置き、職員会議等での話し合いなど、職員の意識向上に努めている。社内勉強会のカリキュラムにも虐待防止を取り入れ、勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員が他職員に伝えたりはしていたが、十分に理解しているとはいえない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族との話の中で、理解されていないところはその都度説明して、理解できるように支援をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設置しているが、ご利用者様家族だけでの話し合いはされていない。個別に管理者や担当者に意見を言われる、それらの意見を反映して、サービスの改善も行っている。	家族の訪問時等に意見を聞き、出された意見を運営者・管理者・職員で話し合い、運営に反映させている。サービス利用金が家族の心配事になっていたため、最近、料金の見直しをして、大変家族から喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で、職員の意見を聞く機会を持ち、回答できるものはその場で行っている。困難なものに関しては、上司の助言をもらっている。	日常的業務の中での気づきを話し合い、結果を全職員で共有できる体制なので、やりがいや連帯感が高まり、職員関係が促進されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休を取り入れて、働きやすい勤務状況を作っている。休み時間に関しても、90分必ずとれるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、社内勉強会も年間で計画している。資格や外部研修等の補助も多くある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列の同業種とは、月1回会議を開き、情報交換を行っているが、地域の同業種との情報交換はほとんど行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報収集と職員間での情報共有に努め、慣れるように積極的な関わりを心がけている。御家族様にも密に連絡とり、本人の具体的なニーズを受け止めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの段階で見学を進め、十分な説明の機会を取っている。事業所が出来る事、出来ない事を伝え、不安なくサービス導入につながるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの段階で、事業所のできる事、できない事の説明に心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活行動を行うようにし、会話を楽しむ事で、信頼関係を築こうと取り組んでいる。その日行いたいことを、ご利用者様に聞いてから過している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様の来訪時などは、事業所での生活の様子を伝え、在宅での暮らしの時の状況等も教えて頂いている。本人の状況に変化があったときには、報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人が面会に来られた際は、御家族様にその時の様子や状況を伝えている。馴染みの関係が継続出来るように努めている。	地域住民宅に訪問して話を聞いたり、家族、兄弟、知人、友人の訪問を支援している。家族のきずなを大切に考えて、毎月、レクリエーション時の写真を送付している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、会話がスムーズに行えるようにしたり、関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域の店での買い物など、本人を交えた地域でのかかわりができるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、御家族さまの希望、思いを把握するように努めている。	職員は、くつろぎの時間を利用して、昔話や地元の話聞きながら、思いや意向を引き出している。日々の情報確認にも留意しながら、利用者本位の生活を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の馴染みの生活環境、本人の想いの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	安心して過せるように、生活リズムの把握、変化時のスタッフ間での情報共有と記録によって、それぞれの体調にあわせた毎日の過ごし方の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員と情報収集を行い、本人が安心して、よりよい生活が出来るよう、意見を聞きながら、介護計画に反映している。	利用者の視点に立った暮らしの継続をいかに確保するか、総合的に支援体制が整っているかなどの視点から着目すると、アセスメント・記録・モニタリングなどが連動できていない。	全職員が利用者本位の課題分析や介護計画作成に参加し、本人らしさを維持、向上させるため、チーム力を生かしてほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言葉や行動の事実の記載とその背景を考えながら記録を行い、介護者の気づきやヒント、介護計画に反映するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様やご家族様の要望に応じて、通院や外出など柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の店での買い物など、本人を交えた地域でのかかわりができるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様やご家族様の意向に沿って、それぞれのかかりつけ医と連携をはかっている。協力医の往診もお願いしている。体調変化時には協力医に相談し、適切な助言をうけている。	本人や家族が希望する掛かりつけ医で往診もあり、安心して適切な医療が受けられる体制が整っている。受診は、必要に応じて職員が付き添いも行い、日常の様子も伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と週2回ほど健康管理を行っている。変化が生じた場合は、その都度連絡をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御家族様と常に連携をとりながら状況を把握し、医療機関とも連携をとりながら、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時について説明し、話し合いを行い、御家族様の意向を書類に記してもらっている。	重度化や終末期のあり方については、掛かりつけ医と十分に連携を図り、家族にも看取りに関する指針や看取り介護に関する同意書を用意して、説明を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師が24時間体制で、急変の際は対応している。緊急連絡網を作成し、緊急時のマニュアルも目立つ場所に置いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っている。	定期的に防災訓練を行い、海岸に近いので、地域の防災訓練にも参加している。マニュアルも作成しており、地震、津波への避難経路の確認や訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の自尊心を損なわないよう声掛けに注意し、職員の言葉使いはスタッフ間で注意し、各自気をつけて、尊敬の念をもってご利用者様に接している。	居室に設置されているポータブルトイレには、オリジナルのカバーが掛けられ、利用者などへの配慮がみられる。職員は、利用者の生活歴のあるなじみの言葉や丁寧な声かけで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の些細なことにも問いかけし、本人に決定してもらうように努めている。今日はどうしたいか、何をしたいかなど、尋ねるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の着替えや着るものは、本人に聞いて行っている。理・美容は訪問での対応になっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞き、作ることもしている。準備や片付けもご利用者様と一部している。	系列の配食サービスを利用しているが、職員は好みのものや味つけを聞いたり、さりげなく介助をしながら、食事を楽しく食べられる支援をしているが、一緒に食事はしていない。	ホームの特性を踏まえて、利用者と職員と一緒に食事を楽しめる環境づくりを前向きに考えてほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立が配食されている。食事量・水分量は記録を基に、職員が把握しており、不足がある場合は代替えなどの提供もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。夜間、義歯は洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄リズムを把握し、排泄の声掛け、トイレ誘導を行っている。	利用者の生活リズムに沿った排せつ支援を行っている。昼間はほとんどの利用者をトイレに声かけ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックや食事摂取量の確認を中心に、個々の排便状況を把握している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行っている。その日の体調をみながら入浴の声掛けを行っています。	利用者一人ひとりに合わせて柔軟に対応し、入浴拒否の利用者に対しては、状況把握して、無理強いをせずに、本人の納得いく入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活パターンにあった生活リズムを尊重している。夜間は安心して眠れるよう、見守りや言葉かけも行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を防ぐために、前日と朝にチェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯物量み、茶碗洗いなど、それぞれの方が出来ることを行ってもらい、楽しめるよう発揮の場を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	月1回は、遠出の外出の機会を設けている。雨の日もドライブへ行き、外出している。	事業所の企画として105プランと題し、利用者に105円を買物支援として提供している。また、ドライブや近隣、近くの植物園、観光地の散歩など、戸外へ出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金をもっている方は、買い物の際に自分で支払われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を本人につないだり、電話をしたいと申し出があったときは電話をかけ、自由に話せる場を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事や花の飾り付けを行い、季節感をだしている。外出やレクリエーションの写真を各居室にあるコルクボードに掲示したり、毎月の請求書と一緒に写真にコメントを添えて送付している。	共用空間は清潔で、利用者が安心できるように生活感、季節感が取り入れられ、時計の位置や各居室に分かりやすい目印の工夫が見られる。それぞれがゆったりと、居心地よく過ごせるように配慮してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで気の合った同士でおしゃべりを楽しまれており、思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使っていた馴染みのものが持ち込まれており、馴染みの環境ができています。	なじみの使い慣れた物や大切な物のほかに、ホームでの写真もボードに掲示されており、安心感や生活の継続への配慮など、居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、廊下、浴室、トイレには手すりが設置され、安全に生活が送れるようにしてある。		